

平成27年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第5回葛飾区行政評価委員会第二分科会
開催日時	平成27年8月6日(木) 午後2時から4時
開催場所	葛飾区役所5階 庁議室
出席者	【委員7人】 小松原会長、江川委員、大山委員、E委員、F委員、長谷委員、町田委員 【区側5人】 事務局(経営改革担当課長、事務局職員4人)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認を行った)

2 事務事業評価

(1)「水辺のふれあいルーム運営」

(前回までの議論をふまえての事務事業評価)

小松原会長：前回までの議論では、来場者数を増やした方が良いのか、来場者数は維持しつつ自然を保護していくのかという意見があった。その点から議論していきたい。

A委員：現状の施設の面積に対してこれ以上人が増えてしまうとカワセミがいなくなってしまう恐れがあるため、来場者は増やさない方が良い。

B委員：近くに駐車場を作る必要はないと思うし、広さは現在の状態が適切だと思う。子ども達に自然について学習してもらえる施設として充実させていくことを考えた方が良い。都会で自然環境を守っていくことを伝える施設としても重要である。水元中学校の環境科学部が水質浄化の実験を行っており、日本水大賞の環境大臣賞を受賞したこともあるため、そういったことを施設で知らせていくことで、環境をどのように維持していくかについて広めてはどうか。

C委員：来場者は増やした方が良いと思う。ただ、無闇に増やせばいいと

ということではなく、資料を見ると、火曜日から金曜日までの平日の来場者数には余裕があるように思える。これは、講座等のイベントを休日に行っているために起きていると予想できるので、平日にも実施することで改善していけるのではないかと考える。また、小中学生に見学してもらうことでも改善できると考える。本施設のみを改修するというよりは、建物が老朽化により更新が必要となったタイミングで、キャパシティも増やす等の検討を行えば良いと思う。

- D委員 : 来場者数には、講座参加者数も含まれているのか。
事務局 : 含まれている。
- D委員 : 本施設を訪れた人は1時間も滞在しないであろう。
- E委員 : 入場無料などの表記がないため、知らない人は有料の施設だと思ってしまうのではないかと。写真撮影で施設を訪れる人は、弁当を持参することもあり、5～6時間滞在することもある。そもそも、来場者を増やす必要があるのか。自然環境について学ぶ場所は、他にもたくさんある。小中学生に見学させるにしても、バスを駐車場に停めて、駐車場から距離のある本施設まで歩かせるというのか。
- C委員 : 来場者をこれ以上増やさないということであれば、コストは削減すべきである。小中学生の見学のために費用をかけるのなら話は別だが、ごく一部の人のためにコストをかけ続けるべきではない。
- E委員 : ごく一部の人にコストをかけるべきではないということであれば、別の評価事業である「赤ちゃんの駅事業」については約3千人の赤ちゃんしか対象にしていなかったため、そのような事務事業は必要ないということになるのか。一部の人であっても守っていかなければならない。
- F委員 : 目標を見直し、水辺のふれあいルームの認知度を上げる指標を設けた方が良い。また、自然環境への意識が変わったのか等についても指標を設けて、その結果で内容の見直し等を行った方が良い。大人向けの講座と子供向けの講座は分けるべきであり、平日の来館者を増やすための取組みとして、年配の方に向けた講座を行っても良いのではないかと。子ども向けの講座については夏休みにいくつか実施してみて、うまくいけば増やすなどしてはどうか。来場者数については、子どもを増やしていくことが良いのではないかと考える。

D委員：事業の成果としては、年間で約3万人来ていることを考えれば良い結果が出ているのではないかと思う。それよりも、講座の受講者数が減少していることについて考えるべきだと思う。

コストについても、約3万人の来場者に対して約1,200万円の委託料で運営できていることについては問題ないと思う。

所管課の方向性として「改善」としていることについては、「継続」が良い。取り組むべきは講座内容の見直しである。

自然環境の保護については本施設に限らず、今後は公園課全体でどうするのかという広い視野で考えてもらいたい。

E委員：講座の内容がマンネリ化しており、面白くない。コストをかけても良いので、もっと魅力的な講座を実施したほうが良い。

小松原会長：意見をまとめると、年間3万人訪れていることは、まずまずの成果が出ているとしてよさそうである。施設の充実においては、現状ではハード面の充実を検討することは難しそうである。事業としては継続しつつ、講座の参加者が減少していることは課題のため、「改善」の方向で事務局に意見をまとめてもらいたい。

(2)「見本市共同出展事業」

(前回までの議論をふまえての事務事業評価)

小松原会長：前回までの議論では、事業を継続するのか、廃止もしくは再構築を行うのかという意見があった。その点から議論していきたい。

E委員：類似事業も含め、事務事業それぞれに役割があることは所管課長の説明で理解したが、思い切って事業を統合する方向で検討してはどうか。

C委員：同じ意見である。機械要素技術展での区によるブース確保をやめ、今後出展をする人については何らかの補助を行ってはどうか。

D委員：費用対効果から見ると、1社あたりの商談成立が2件にも満たない事業に対して、約800万円のコストを投入しているのは、区民目線では納得できない。対象の実態を調べて的確に事業実施していただきたい。本事務事業については廃止しても良いと思う。

B委員：本事務事業については継続してもらいたい。理由は、機械要素技術展については商業的な目で見にくる来場者が多いのに対し、産業見本市については確実なものを求めている来場者が少なかったように見え、それぞれの展示会の客層が異なっているためである。区内企業のビジネスに直結させるためには本事務事業が必要であり、

事業開始からの期間が短いことから、廃止と判断するにはまだ早いと思う。

しかし、費用対効果から見るとコストのかけ方は無駄に感じるため、何が成功で何が失敗であったかの原因を区がまとめ、区民に提示できるようにした方が良い。

A委員：「産業見本市開催事業」は、出展者が少ないから出展してくれと言われた企業があったと聞いた。みんなが盛り上がり出展するのであれば良いが、これが本当であれば寂しく感じる。事務事業を実施した効果がどの程度あるのかをデータ化することは難しいと思うが、数値が向上していないのであれば効果がないとして廃止をしても良いと思う。

また、現在はウェブサイトの検索ができる時代である。展示会に行かなくとも注文はできてしまうことを考えると、展示会への出展は本当に必要なのか疑問である。

E委員：10数社のためにこれだけのコストをかけなくとも、力のある企業は自分たちの力で出展すれば良いことなので、区がブースを確保してお膳立てする必要はない。開始して5～6年で行政評価委員会にかけられる事業ということは、最初から失敗であった事業なのではないか。失敗であった事業は廃止すべきである。

F委員：本事務事業は廃止しても良いと思う。事務事業に意味がなかったとは思わないが、内容が重なる点が多い。展示会出展についてノウハウの無い企業と区が力を合わせて一緒に取り組んでこられたことには意味があったと思うため、ノウハウをマニュアルとして残しておき、今後企業が産業見本市等に出展する際に案内できるようにしてもらいたい。

小松原会長：事業継続を望む意見もあったが、おおむねの意見としては廃止または統合してはどうかというものであった。機械要素技術展に出展するという限られた部分だけにコストをかけるよりは、区内企業が多く出展できる「産業見本市開催事業」に力を注ぐべきということで、「廃止」として意見をまとめてもらいたい。

(3)「赤ちゃんの駅事業」

(前回までの議論をふまえての事務事業評価)

小松原会長：前回までの議論では、コストをかけて設備の改修やメンテナンスを実施していくのか、あまりコストをかけずに実施していくのかと

いう議論があった。その点から議論していきたい。所管課からは、必須の事業ではないが、利便性の向上のためにどこまでコストをかけるべきかという話があった。それらをふまえてご意見をいただきたい。

E委員 : メンテナンスが重要である。事業を拡充して、誰でも気持ち良く利用できるようにすべきである。メンテナンスを実施することと、前回意見が出ていたように、次のステップに進んでいくことが重要である。

F委員 : コストはこれ以上かけない方が良い。利用されていないところもあると予想するため、使われていないところについては統廃合していくべきである。前回、人が集まる場所への設置が進んでいないという話があったため、統廃合した分のコストを人の集まる場所への設置に回せばいいと思う。

C委員 : どれだけ使われているかがわからない状況では、設置場所を広めても無駄である。おむつ交換台に敷くシートを活用するなどして、基本に戻った実態調査を行うべきである。実態調査をしなければ、新規の設置も廃止もできないのではないかと。公園課の管轄になると思うが、誰でもトイレが計画的に設置されていくとすれば、そこにベビーベッドを設置することもできる。しかし、いずれにしても実態調査を行ってから実施するべきだと思う。

A委員 : 近所では赤ちゃんの駅はあまり使われていないと聞いている。大規模店舗などでは、長い時間買い物をするため設置を進めていることも理解できるが、コストをかけて、利用されないものを整備しても意味がないのではないかと。周囲の保護者に聞いた範囲でだが、おむつ交換に関して困ったことはこれまで無かったとのことである。

小松原会長 : 意見としては、使われているところと使われていないところの取捨選択をし、使われているところについてはメンテナンスを行うべきであり、そのためには方法は難しいが、実態調査が必要なのではないかと。前回、利用者にとっては民間施設を含めてどれだけ整備されているかの情報が必要ではないかという意見もあり、ハードだけでなくソフトの面でも周知の仕方等工夫の余地がありそうである。広げる部分は広げていくが、一方では縮小していく面もあると思うので、「拡充」というよりは「改善」にあたるか。

D委員 : 「拡充」で構わないと思う。成果としては、コストのかけ方に対しては満足している。しかし、実態としてどうなのかという点につい

ては、おおむね 500mに1カ所が適切なのかということがわからないため、何とも言えない。

E委員 : 「拡充」となれば、メンテナンスを行ったり、使い捨てシートを設置したり、見回りをする人を配置したりと、桁が変わるほどコストが変わるが、実施するのであればもっとしっかりと費用をかけて実施すべきである。

D委員 : 事業を民間企業に委託するという手もある。

C委員 : 必要であるかどうかの実態を調べずに議論はできない。実態を調査し、本当に需要があるのであればコストをかけてでも実施していくべきだと思う。

D委員 : 現在ある施設に満足しているかどうかと、赤ちゃんの駅が必要かという意見では、意味が異なる。

E委員 : 保護者は、必要だと答えるはずである。

F委員 : 長時間滞在する大規模店舗では授乳室も必要だと思うが、道を歩いていて急に授乳が必要になることは、まず有り得ない。

D委員 : そうであれば、根本的に見直しを行う必要がある。

E委員 : 本事務事業と同様の取組みについて、23 区内では実施している区とそうでない区が半々程度である。実施していない区にはそれなりの理由があるはずである。

小松原会長 : 実施していないのは都心区に多く、実施しているのは周辺区に多いのではないか。

A委員 : 実施していない区で、実施してほしいという要望や苦情があるのかどうか。長時間滞在する場所であればともかく、無闇に設置していくものではないと思う。

D委員 : 現在の設置箇所の改廃と、今後こういった場所に設置してもらいたいという要望では、まったく意味合いが異なる。

F委員 : 他区に住んでいたことがあるが、他区との違いは出生率の差もあるのではないかと思う。本区には、地域で子育てを応援してくれる雰囲気もある。

例えば、ある程度の規模以上の店舗が出店する際は、おむつ交換台等を設置しなければ出店させない等の規制をかけてはどうか。

D委員 : 保護者が、赤ちゃんの駅をどこに設置してほしいかというアンケートを取ってほしい。

F委員 : 所管課ではそういったデータを持っているのではないか。

C委員 : 所管課の説明では、アンケートを取っているとのことであった。どのようなアンケート内容でどのような結果であったのか。評価に

あたって、その内容も知らされない。

事務局 : 前回もお話ししたとおり、子育て全般についてのアンケートであり、赤ちゃんの駅についてのアンケートではない。赤ちゃんの駅については、存在を知っているかどうかを問う内容だけである。

F委員 : 子育てについてのアンケートは、かなりの量を取っているはずである。本区で子育てしていく中で何が必要かや、何が使われているかのデータは把握しているはずである。「拡充」というよりは、拡充する内容と縮小する内容があるため、コストとしては維持されるのではないか。

E委員 : アンケートを取っても活用していない例が多くある。民間人が介入するようなアンケートの取り方を検討すれば、アンケート結果ももっと活用されるのではないか。

小松原会長 : 今後の方向性として提言するのは「改善」ということで良いか。

E委員 : 「拡充」が良い。

D委員 : 同じく「拡充」で良いのではないか。

C委員 : 現状のまま拡充しても、過剰サービスになる可能性がある。必要な部分にはコストをかけても良いと思うが、現段階では実態を把握できていない。

D委員 : 「拡充」は止め、「改善」としたい。

E委員 : 調査をして、必要であれば「拡充」すべきである。

A委員 : 初めから「拡充」とは言えない。

小松原会長 : 調査をして、必要であれば「拡充」していく必要があるということで、現状においては「改善」として意見をまとめてもらいたい。

3 その他

事務局より事務連絡

4 閉会